



短騎
艇馬

遠征凱歌

全

活
眼
子
著



$$\begin{array}{r} 5 \\ 45 \\ \hline 21 \\ 66 \end{array} 34$$

$$\begin{array}{r} 21 \\ 100 \\ \hline 21 \\ \hline 119 \end{array}$$

騎馬遠征凱歌
端艇

福島中佐

「見よや見よ福島中佐の絶大偉業。」



日本帝國軍人の。重き名譽を一身に。擔ふて立し安正が。人の蹈みに
し跡もあき。歐亞万里の大陸を。探検せんと唯單身。跨る駒の勇まし
く。威風炫ゆき首途は。伯林都城を震動す獨逸を出發て露西亞に入り。
蒙古を過ぎて西比利亞。征路遙かに雲漠々。露帝の賜ひし謁見や。武
官淑女の厚遇も。前途の多難を推想せば。胞も百感躍るらん。去れど
一度盟ひたる。日本男兒の決心は。石をも徹す桑の弓。譬へ骸を暴す
ども。「なごか屈せん撓むべき。朔風凜冽砂を捲き。飛雪紛々骨を刺す。
「強き寒氣も厭ひなく。人烟稀に道絶へて。谷間も吼ゆる猛獸の。聲物

凄き夜の旅。峻坂砂漠を打越して。烏拉山頭馬を立て。歐亞の二州を睥睨し。自から高き誇りたる。勇氣豪膽斗の如し。乱れたる世に功名を。建つる例は多けれど。波も動かぬ大御代に。昔を凌ぐ豪傑も。普く世人又賛美され。國旗の光色添へて。香ばしき名を海外に。輝したる功績は。何時の世迄も朽ちぬらん。

「英雄の心腸乱れて悲哀の涙。」

騎りし愛馬の凱旋も。長の旅路も耐へやらで。病も歩行かなわねば。今は中佐も力なく。別れに臨む其時は。堰き来る涙止めかねて。「征衣の袖をば濡しけり。鬱蒼繁茂れる樹の下。暑熱を凌ぐ飯の宿。暮れて涼しき夕風。月の光を力とし。迎る蒙古の夏の山。千難前も横入り。萬苦後に迫るとも。泰然動かぬ安正が。斃れて已矣の勇膽は。誰か感

嘆なさらん。過ぎ行く都市の官民が。壽祝ふ杯や。贈る紀章の敬禮は。「款待優遇涯なし。アルプス山を跋躑し。武名を揚げし那翁。

アフリカ内地を探りたる。スタンレー氏の功績も。「如何で及ばん騎馬旅行。砲煙彈雨の戦場。性命惜まん働も。地理風俗の研究。辛酸苦難を嘗めつるも。「盡す誠は國の爲め。やがて歸朝の曉は。長崎神戸横濱や。東京市街を初めとし。四千余万の同胞が。喝采拍手の歡迎と。赤心込めし宴會に。捧げし名譽の冠は。揚る煙火の音高く。「五大州裡に轟かん。

郡司大尉

「軍人が國に盡せる名譽の鑑。」

郡司大尉を初とし。報効義會の人々が。賢邊りの恩賜に。勇氣も一

層加はりて。遠き千島の占守へ。移住の壯圖も緒も就て。言問岡の岸邊より。纜解きし其時に。晴の首途を送らんと。墨陀十里の長堤も「築がん計りの人の山。廣き川面も鳴り響く。拍手の音も万歳を。唱へて祝ふ歡聲は。天地も崩れん有様ぞ。横須賀、浦賀、館山や。津々浦々も舟寄せて。調度を急ぐ東の間も。盡せる有志の饗應も。一重き名譽を荷ひつゝ。四方も立籠む朝霧や。東西分ぬ眞の暗。狂瀾怒濤の荒海も。木の葉に比さし短艇も。櫓櫂操つり悠々と。進む丈夫の胸中は「如何なる策をや藏むらん。やがて千島も着ぬれば。銃や劔に引かへて。慣れぬ鋤鋤携へつ。變る氣候の厭ひなく。不毛の山野を開拓し。北門鎖鑰を固めんと。務むる大尉の誠心は。實もや皇國の干城ぞ。四千余万の同胞が。大尉の勇氣を摸範とし。國家の事業も盡しなば。我が

日本の本の權勢は。歐米諸州を凌ぐらん

「勇ましく舳舻脚みし數艘の端艇。

觀音崎の砲臺を。出れば名も負相摸洋。後も見なして房総や。鹿島の灘

も陸奥の海。逆巻く浪は舷を。碎かん計りの勢ぞ。仙臺、松島、石ノ

巻。宮古の浦を過ぎ去りつ。青森さして揖を執り。漕ぎ行く大尉の誠

心も。無情の風波は容赦なく。報効鼎浦の兩船を。荒き磯邊に打碎き。

二十余名の人々を。海の藻屑とあしたりし。鯨が港の光景は。愁雨凄々

雲慘擔。大尉負傷の報道に。毀譽褒貶の論評は。噴々朝野に轟し。さへ

然りなから昔より。大業偉勳の行路には。種々の障害多けれど。一難

經るも隨て。強き氣象を一倍し。奮勵事に當りなは。如何なる事業か

成らざらん。重き責任ある大尉等は。人の批評を顧みず。行路の多難に

踟躕せず。早く千島に赴きて。至大の素望を達しなば。今の譽も彌勝る。
「名譽は子孫に傳へらん。」

福島中佐

「伯林の花よ背きて西比利亞の月と雪とを友となし 帰る中佐
の騎馬旅行 義烈堂々

「英雄の毅き心も凱旋に別るゝ時の悲しみ 一カ
イ

杜鵑一聲血の涙 義烈堂々

「二年の長き旅路の草枕積る難苦も厭ひさく 一カ
イ

盡す誠は國の爲 義烈堂々

郡司大尉

「勇ましく墨田の堤を船出して漕ぎ行く先は白波の 一カ
イ

一望万里の北の端 義烈堂々

「身いたとへ海の藻屑と消ゆるとも魂魄千島に留りて 一カ
イ

護り堅めん日本國 義烈堂々

「大丈夫が千島よ建てし日ノ丸の光輝く旗風よ 一カ
イ

吹靡かせん五大州 義烈堂々

明治二十六年六月十一日印刷
全 年全月十四日發行

定價三錢



著者兼發行者 長野縣平民
伊藤友治郎

東京市下谷區南稻荷町
六十六番地寄留

印刷人 島田用定
東京市京橋區瀧山町七番地
電話百三十二番

印刷所 瀧關舍